



## 熊本の病院紹介

### 国立病院機構熊本医療センター

国立病院機構熊本医療センター 院長

池井 聰

本院は、明治四年八月に設置された鎮西鎮台病院を前身とし、衛戍病院、熊本第一陸軍病院を経て昭和二十年十二月一日に厚生省に移管され国立熊本病院となり、平成十六年四月一日に国立病院、国立療養所の独立行政法人化に伴い独立行政法人国立病院機構熊本医療センターになりました。場所は熊本城二の丸の一面に位置し、平成二十一年九月二十二日に、全面立て替えに伴い新病院に移転しました。

当院の病床数は五五〇床、診療科は三三科あり、医師数一四二名、看護師四七五名など職員数は八四九名ですが、委託職員を含めると千名を越す職員が勤務しており、七対一の看護体制をとっています。設備としては、128列、64列など計三台のCT、MR二台、血管造影装置二台、リニアック、ラルストロン、高気圧酸素治療装置などの医療機器を備え、救命救急センター四四床、I

CU六床、CCU四床、手術室は一〇室を有して地域の急性期中核病院としての役割をはたしています。これらの施設と設備を活用して、「最新の知識・医療技術と礼節をもって良質で安全な医療を目指す」ことを基本理念に掲げて、救急医療、政策医療としてのがん、循環器疾患、血液・造血器疾患、感覚器（眼、耳）疾患、精神疾患、長寿医療、その他全診療科にわたり専門性の高い医療を提供しています。

当院は、運営方針のひとつである「医療連携と救急医療の推進」に特力を入れていきます。これまで開放型病院、地域医療支援病院、地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院の認可をうけており、一四〇〇名を超える開放型病院の登録医の先生方のご協力のもと医療連携を推進しています。当院で開発した大腿骨頸部骨折地域医療連携クリティカルパスは全国に拡がり、保険点数に搭載され、医療連携のこれからの方向性を示すものと評価されています。また、救急医療では、年間七千台を超える救急車の搬送があり、脳卒中、心・

血管疾患、感染性疾患など多くの救急患者を受け入れ、熊本の救急医療を支えています。

また、診療と共に教育・研修、臨床研究にも力を入れていきます。平成十六年度より臨床研修医の受け入れを行っています。現在、計三六名の臨床研修医が研修中です。当院で臨床研修終了後に大学の医局に入局し、さらに成長してまた当院に派遣されてきた医師も数名いて、熊大と良好な研修協力体制を維持しています。また地域医療研修センターは、症状・疾患別シリーズ、ナースのための救急蘇生法講座など医師だけでなくコメディカルを対象とした幅広い研修を年間の研修プログラムにそって活発に実施して、医療従事者の教育を行っています。臨床研究部は国際医療協力で毎年数十名の外国人留学生を受け入れ教育・実習を実施し、厚生労働省の研修班に多数参加し、また治験センターでは積極的に臨床治

験を行っています。

このように当院は臨床、教育・研修、臨床研究と多岐にわたり活動していますが、今後も熊本の急性期中核病院としての責務を果たすべく努力する所存です。



国立病院機構熊本医療センター